

みえるらべる

（農産物の環境負荷低減の「見える化」）

の取組事例

「みえるらべる」とは・・・

- 「みえるらべる」とは、農産物生産における環境負荷低減効果を星の数で「見える化」して、商品に表示できるラベルです。
- 化学肥料・化学農薬の使用低減や中干し期間の延長など、温室効果ガス削減や生物多様性保全の取組の効果に応じて、その貢献度を消費者に示すことができます。

所在地



取組面積

水稻：2.2ha
畑（白ねぎ、だいこん、ばれいしょ等）
有機：2.5ha
特裁：0.4ha



高橋和人代表

商品への表示状況



みえるらべるに取り組んだきっかけ

- 「みどり認定」を取得した際に、加入している「岩手県有機JAS協議会」の構成メンバーから「みえるらべる」について教えてもらったことをきっかけに取り組み始めた。

取組状況

- 従来から環境負荷低減に向けた有機農業に力を入れてたため、すぐに「みえるらべる」を取得できた。「温室効果ガス削減」「生物多様性保全」のいずれも星3つを取得できた。
- 米以外でも、白ねぎ、だいこん、ばれいしょのそれぞれの品目で「みえるらべる」を取得済である。

今後の取組方針

- 「みえるらべる」の認知が進んでいないため、同業者とともに周りの理解を得ながら環境負荷低減の取組として進めていきたい。
- 「みえるらべる」の対象品目が、にんにくや唐辛子も追加になれば、当該品目でも「みえるらべる」を取得したい。
- 現在は、「みえるらべる」が付いた食材は直販で介護施設などに限定して販売しているが、人手に余裕があれば、一般の方々にも「みえるらべる」の付いた食材を販売したい。

02 みやぎ登米農業協同組合

所在地



取組面積

環境保全米（令和6年産）
Cタイプ：5,608ha
（特別栽培の基準）
Cタイプ以外：308ha
（特別栽培と同等以上の基準）

商品への表示状況



みえるらべるに取り組んだきっかけ

- JAみやぎ登米においては、平成15年から「赤とんぼが乱舞する米産地の復活」を合言葉に、自然環境にも配慮した米づくりの生産に取り組む「環境保全米づくり運動」を開始した。
- JA管内で大規模に環境保全米に取り組んでいたところ、農林水産省から提案があり、環境保全米の販売先に協力を依頼し、令和4年度の実証試験から取り組み始めた。

取組状況

- 実証試験で行った消費者アンケートでは、高評価を得られた。
- 令和4年度の実証試験の評価も踏まえて、令和5年度に農林水産省が改めて算定したところ、「温室効果ガス削減」は星3つ、「生物多様性保全」は星2つを取得した。
- 取引先である神明と連携し、環境保全米を原料とした商品米袋への表示を令和6年7月より開始した。

今後の取組方針

- 今後も取引先と連携し、ニーズがあれば「みえるらべる」表示商品を拡大していきたい。

所在地



取組面積

水稻：2ha

果樹：1ha



太田和慶
環境事業部農業課主任

商品への表示状況



みえるらべるに取り組んだきっかけ

- 本業は運送業である中、町では農業者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の問題が顕在化しており、持続可能で安心安全な地域社会にとって、農業を維持していくことは重要な要素だと考え、平成30年頃から農業分野に参入した。
- 町の環境意識が高まる中、自社が削減する温室効果ガスを「見える化」したいと考えたのがきっかけで「みえるらべる」の表示に取り組み始めた。

取組状況

- 地域内の資源循環を目指した官民連携事業として、町内から出る生ごみやし尿汚泥といった未利用のバイオマスから精製した液肥を町内の農地に散布する業務を受託している。
- 液肥を使って育てた米は、「めぐりん米」の商標でオンラインや南三陸さんさん商店街（道の駅）で販売しているほか、新たに町のふるさと納税の返礼品となった。
- 「みえるらべる」を取得したことで、会社や町の環境負荷低減の取組が、消費者理解の醸成に繋がればよいと期待している。

今後の取組方針

- バイオ炭Jクレジットにも取り組んでみたい。

所在地



取組面積

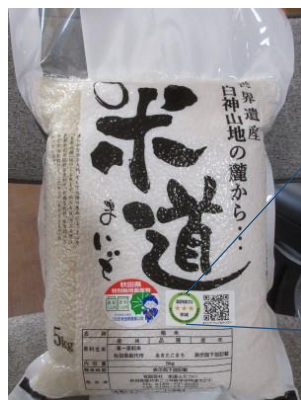
水稻：40ha

うち有機栽培：2ha



桜田代表

商品への表示状況



みえるらべるに取り組んだきっかけ

- 約20年前（米道ふたつを始めて2-3年目）に、取引先（㈱イワイ：おむすび権兵衛を運営）から減肥料・減農薬の米を求められ、秋田県特別栽培農産物認証を取得。
- その後、取引先の㈱イワイから、温室効果ガス削減「見える化」の実証について案内があったことをきっかけに、令和4年度から取り組み始めた。

取組状況

- ①化学農薬・化学肥料の使用を最小限にし、②中干し延長でメタン削減を行ったことで、「温室効果ガス削減」で星3つを取得した。
- Jクレジット中干し延長にも取り組み、収入に繋がっている。
- 「みえるらべる」を表示した商品の新たな取引先となった会社（首都圏で保育園を展開している会社）からは、「温室効果ガス削減の取組について、保護者にも積極的に伝えていきたい。」と好印象をもっていただけた。

今後の取組方針

- 首都圏で保育園を展開している会社には、令和5年度は30tを出荷し、令和6年度も30tの出荷を予定する。

所在地

取組面積

水稻：126.5ha

そば：4.3ha

小菊：0.5ha

秋田県
横手市


渡部章久 事務長

商品への表示状況



みえるらべるに取り組んだきっかけ

- 環境にやさしい農業を実現するため、従前より特別栽培米の生産や堆肥散布に取り組み、他の生産者との差別化をはかってきた。令和6年春に東北みどり戦略により「環境負荷低減の見える化」に取り組んでいる生産者が身近にいることを知り、秋田県の「みどり認定」とともに取り組んでみようと思った。

取組状況

- 令和5年産の水稻栽培で「温室効果ガス削減」「生物多様性保全」とともに星2つを取得した。
- 令和6年産の水稻栽培においては、環境に配慮した中干しの実施等により「温室効果ガス削減」「生物多様性保全」のいずれも星3つを取得できた。
- 樽見内営農組合が販売する“あきたこまち”などの米袋に「みえるらべる」を表示して出荷している。

今後の取組方針

- 環境にやさしい農業への取り組みを継続するため、特別栽培米の生産量や堆肥散布面積を拡大させるほか、一部圃場で有機栽培に挑戦する予定である。
- 新たに契約予定の宿泊施設に「みえるらべる」を表示して出荷するほか、同施設内に「みえるらべる」や自社を紹介するPOP広告を掲示することにより、環境負荷軽減への取り組みを消費者に周知していきたいと考えている。

所在地

取組面積

水稻：14ha

さくらんぼ：0.61ha

もも：0.14ha

りんご：0.20ha

花き：0.19ha

山形県
寒河江市


商品への表示状況



みえるらべるに取り組んだきっかけ

- 「みんなにここに」を信条に、デジタル等を駆使したちょっとした工夫で、ちょっとした環境負荷低減を無理なく継続していた。
- みどり認定の取得やクレジット中干し延長に取り組んでいたところ、「みえるらべる」の紹介があった。海外輸出も考えており、「安全・安心な日本の米」をアピールして販売するために、現段階でできる最大の環境負荷低減に取り組みたいと思って始めた。

取組状況

- 既に取り組んでいた①作物残渣（稲わら）すき込み、②間断かん水、③中干し延長、④秋耕（秋起こし）、⑤化学肥料・農薬低減（つや姫：山形県の栽培基準、はえぬき・雪若丸：JAさがえ西村山の「土づくり安心米」基準に準拠）により、「温室効果ガス削減」で星3つをらくらく取得した。
- 「みえるらべる」を表示した商品は食べチョク等で販売している。
- 「みえるらべる」単独での製品差別化は難しいと考えているものの、同じような製品・価格帯の商品と比較する際に「みえるらべる」が消費者の選択を後押ししてくれることを期待している。

今後の取組方針

- ももやりんごにも「みえるらべる」を表示できるよう取り組みたい。

所在地

秋田県
横手市

取組面積

水稻：1.6ha
(特別栽培：あきたこまち、サキホコレ、もち米、酒米)



全国農高収穫祭における
生徒による販売の様子

生徒の手作り「みえるらべる」POP

農林水産省が実施している

環境負荷低減の「見える化」で星3つ取得！



増田高等学校農業科学科(米)



- ・農業、化学肥料の使用を6割削減
 - ・効果的な水管理でメタン削減
 - ・周辺の生き物にやさしい栽培
- 地球温暖化の原因の
温室効果ガスの4割削減に貢献

←環境負荷低減の「見える化」の詳細について

みえるらべるに取り組んだきっかけ

- ブランド米「サキホコレ」の栽培について、令和7年度から特別栽培が要件化されることに伴い、令和5年度からあきたこまち、サキホコレ、もち米、酒米で特別栽培に取り組み始めた。
- 特別栽培を始め、農業分野の環境負荷を意識してから、地球温暖化問題が見えてきて、CO₂などの温室効果ガス削減の取組が目に見えて分かるものがないか探していたら、「みえるらべる」にたどり着いた。
- 農業高校でも「みえるらべる」取得可能と知り、取り組み始めた。

取組状況

- 令和6年11月3日と4日に、大丸東京店で全国の農業高校46校が参加し、高校生が自ら販売する「全国農業高校HANASAKA収穫祭2024」にラベル表示した米を販売したほか、同11月17日に秋田ふるさと村で開催された高校生チャレンジショップでラベル表示した米を生徒たちが対面販売した。

今後の取組方針

- 「全国農業高校HANASAKA収穫祭2024」に参加した他県の高校でも「みえるらべる」に取り組んでみたいとの声が聞こえてきたので、イベントを通して他の農業高校へ「みえるらべる」のPR活動をしていきたい。

所在地

宮城県
大崎市

取組面積

水稻：218ha
(うち102haで「見える化」取得)
(特別栽培：ひとめぼれ、つや姫)



“びっくりドンキー”契約ほ場

「見える化」の取組状況

←生物多様性に配慮した「魚道の設置」



組合員が取得した
等級ラベル

「びっくりドンキー」田んぼの生きもの調査

みえるらべるに取り組んだきっかけ

- (株)アレフは、主にハンバーグレストラン「びっくりドンキー」を展開する外食企業で、店舗で提供する米は、独自の「省農薬米」基準として、①農薬使用は除草剤1回以下（畦も含め殺虫剤・殺菌剤使用不可）②化学肥料の制限（地域の慣行レベルの50%未満）と有機物施用の推奨を設け、生物多様性に配慮した持続的な米の仕入活動に取り組み、蕪栗米生産組合と米の契約栽培を行ってきた。
- (株)アレフから、水田の生物多様性保全に貢献していることをPRするために、「見える化」取得を勧められたのがきっかけ（特に、生物多様性保全の取組を重視）。

取組状況

- 蕪栗米生産組合は、組合員として60戸の生産農家を抱えており、このうち試験的に1戸の蕪栗千葉農場（1.7ha）で令和6年5月に「見える化」取得。
- その後、6年産米で33戸の生産農家が令和7年3月に「見える化」取得し、(株)アレフの直営店に出荷。この他、毎年1回以上の「田んぼの生きもの調査」にも取り組む。

今後の取組方針

- 組合員は、水生の幼生が成体になるのを待つための「水田の中干し延期」や水田に生息する魚類の移動を助けるため落差の大きな排水路と水田をつなぐ「魚道の設置」など、今後も生物多様性保全の取組活動を自主的に継続。
- 人件費の削減や、作業効率を高め、低コストで栽培するために、乾田播種に取り組んでいきたい。

農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」

参考1

- **みどりの食料システム戦略**に基づき、消費者の選択に資する環境負荷低減の取組の「見える化」を進めます。
- 化学肥料・化学農薬や化石燃料の使用量、バイオ炭の施用量、水田の水管理などの栽培情報を用い、定量的に温室効果ガスの排出と吸収を算定し、削減への貢献の度合いに応じ星の数で分かりやすく表示します。
- 米については、**生物多様性保全**の取組の得点に応じて評価し、温室効果ガスの削減貢献と合わせて等級表示できます。
- 農産物等にラベル表示するための基本的な考え方と、算定・表示の手順を整理したガイドラインを策定し、令和6年3月に「見える化」の本格運用を開始しました。（登録番号付与576件、販売店舗等896か所 令和6年12月末時点）
- 生産者・事業者に対する算定支援や販売資材の提供を引き続き実施するとともに、「見える化」した農産物が優先的に選択されるよう、各種調達基準への位置づけや消費者の購買意欲を高めるための民間ポイントとの連携を検討します。

詳しくは
農林水産省HPへ



温室効果ガス削減への貢献

栽培情報を用い、生産時の温室効果ガス排出量を試算し、地域の慣行栽培と比較した削減貢献率を算定。

$$100\% - \frac{\text{対象生産者の栽培方法での排出量(品目別)}}{\text{地域の標準的栽培方法での排出量(品目別)}} = \text{削減貢献率(\%)}$$

排出(農薬、肥料、燃料等) - 吸収(バイオ炭等)

★ : 削減貢献率5%以上
★★ : // 10%以上
★★★ : // 20%以上



対象品目：23品目

米、トマト(露地・施設)、キュウリ(露地・施設)、なす(露地・施設)、ほうれん草、白ねぎ、玉ねぎ、白菜、キャベツ、レタス、大根、にんじん、アスパラガス、ミニトマト(施設)、いちご(施設)、リンゴ、温州みかん(露地・施設)、ぶどう(露地・施設)、日本なし、もも、ばれいしょ、かんしょ、茶

※括弧書きがないものは全て露地のみ

生物多様性保全への配慮

※米に限る

<取組一覧>

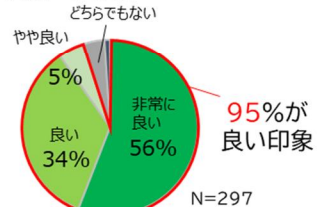
化学農薬・化学肥料の不使用	2点
化学農薬・化学肥料の低減(5割以上10割未満)	1点
冬期湛水	1点
中干し延期または中止	1点
江の設置等	1点
魚類の保護	1点
畦畔管理	1点

★ : 取組の得点1点
★★ : // 2点
★★★ : // 3点以上

消費者へのわかりやすい表示

【令和4年度・令和5年度 実証より】

店舗への印象



取組者からは、

- ・既存の栽培データで簡単に算定ができた
- ・ラベルを付けたことで売上が伸びたとの声。

令和6年3月からの本格運用以降、

- 登録番号付与**576**件
- 販売店舗等**896**か所
(令和6年12月末時点)

みえるらべるの広がり

参考2

- 全国各地の小売店等において、みえるらべるを表示した農産物等の販売が広がっている。

マックスバリュ（北海道、岩手、愛知、沖縄）：スーパー

- ・北海道の店舗で玉ねぎ、岩手県の店舗でミニトマト、かんしょ、愛知県の店舗でなす、沖縄県の店舗できゅうりを販売。



ドン・キホーテ（沖縄）：ディスカウントストア

- ・化学農薬・化学肥料不使用で栽培されたきゅうりを販売。



イオン東北（岩手）：スーパー

- ・化学農薬の使用を最小限に栽培されたミニトマト、かんしょを販売。



エレナ（長崎、佐賀）：スーパー

- ・意欲ある地域の若手農業者が「見える化」に取り組む。
- ・緑肥の投入など環境に配慮して栽培されたキャベツ、にんじんを使用した千切りキャベツ、ミックスサラダを販売。



グリーンコープ生協（九州、広島、山口）：宅配

- ・化学肥料不使用で栽培された白ねぎを販売。

神明（全国）：米穀卸売

- ・化学農薬・化学肥料の使用低減や生物多様性保全に取り組む、JAみやぎ登米、JAたじまの米を全国のイオン等で販売。



秋田県立増田高等学校（秋田）：学校

- ・生徒が環境に配慮して育てた米でGHG削減貢献・生物多様性保全の両方で星3つを取得。
- ・校内や地域イベントのほか、令和6年11月に東京・大丸の催事において生徒自らが対面販売。



道北アークス（北海道）：スーパー

- ・環境に配慮して栽培した白ねぎ、玉ねぎで「見える化」に取り組み、販売。



イオン北海道（北海道）：スーパー

- ・北海道内のイオン全店舗において、化学農薬・化学肥料を減らし、緑肥を投入して栽培された玉ねぎを販売。



マイヤ（岩手、宮城）：スーパー

- ・化学肥料不使用で栽培されたかんしょ、ばれいしょ、白ねぎ、大根を販売。

